



# グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2008 Vol.9, No.2

## 「日米アジア対話」開催さる —東アジア共同体と米国—

当フォーラムは、米国パシフィック・フォーラム CSIS 等との共催により、1月22日、東京において「日米アジア対話：東アジア共同体と米国」を開催し、東アジア共同体構想が近年次第にその重層的構造を露わにしつつある中で、米国の関わり方のあるべき姿について、日米アジアの専門家間で徹底的な議論を行った。当日の参加者は99名であった。

### 東アジア協力に関する 第二共同声明後の共同体構築

午前の部「東アジア協力に関する第二共同声明後の共同体構築」では、まず田中明彦東京大学教授と楊伯江中国現代国際関係研究院日本研究所所長の2人の基調報告者から、報告がなされた。田中教授は「東アジアにおける共同体の構築には、内政不干涉主義と普遍的価値の相克や日中間・日韓間の政治的不信などの、乗り越えなければならない課題がある。また、インド、豪州、ニュージーランドを地域に含むのかどうかという問題もある」と述べ、楊所長は「東アジア統合の過程は、不可逆的な歴史的趨勢であり、東アジア諸国にとっての問題は、地域統合を進めるか否かではな



開会挨拶する  
伊藤憲一当フォーラム執行世話人  
(左から2人目)

く、どのように進めるかだけである。米国の東アジア政策は、一方で二国間同盟網を維持すると同時に、他方で対中協力の可能性を探るという二重政策である。東アジア共同体構築の鍵を握るのは、日中関係であり、日中両国が地域統合をテーマに対話を継続することは、実効性を伴った共同体構築に役立つだけでなく、ひいては両国間の友好関係を発展させることにも通ずる」と論じた。

引き続き行なわれた出席者全員の参加する自由討論では、「安倍訪中で、日中関係は劇的に改善した。日韓の相互理解も映画や音楽を通して深まっている。日中韓首脳会議が発足したことも重要である」(日本側)、「共同体構築において、現段階ではASEANが運転席に座っているが、長期的には中国、日本、韓国にリーダーシップを発揮してもらいたい」(ASEAN側)等の活発な意見が述べられた。

### 東アジア共同体と米国

午後の部「東アジア共同体と米国」では、冒頭ラルフ・コッサ・パシフィック・フォーラム CSIS 理事長と福島安紀子・国際交流基金特別研究員の2人の基調報告者から、報告がなされた。コッサ理事長は「東アジアにおける共同体構築はまだ長い道のりの半ばにある。現時点で東アジア・サミット (EAS) を『前進』とは言えない。EAS はあくまで補助的役割にとどまっておき、共同体構築の主導力は ASEAN + 3 にある。米国は、中東に気を取られており、東アジアに関心が薄いのは確かだが、東アジアの地域統合には賛成している」と述べ、福島特別研究員は「東ア



活発に討議する参加者たち

ジアにとって米国との良好な関係は、経済と安全保障の両方の観点から必要だ。米国にとっても、アジアに関与することは、その影響力を維持するために不可欠だ」と論じた。

その後の自由討論では「東アジア共同体構築における米国の役割は、インド、豪州、ニュージーランドと同様である。しかし、大統領選挙でこの問題に言及する候補者がいないのを見ても分かる通り、米国の関心は低い」(米国側)、「APEC と ARF が傍流化しているとの懸念の声があるが、どちらも米国とこの地域の間のパイプの役割を果たしている」(日本側)等の率直な意見が述べられた。

### 謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の12社20口です。ここに特記して謝意を表します。

#### 【経済人世話人所属企業】 [5口]

トヨタ自動車 キッコーマン

#### 【経済人メンバー所属企業】 [1口]

住友電気工業 鹿島建設

新日本製鐵 東京電力 旭硝子

三菱東京UFJ銀行 日本電信電話

富士ゼロックス ビル代行

日本郵船

(入会日付順)

## 議論百出から

当フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp/jpn.htm>) 上の政策掲示板「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

### 有意義だった黒海地域との対話

全国中小企業情報促進センター参与 木下 博生

昨年11月21日にグローバル・フォーラムの主催で開催された第2回「日・黒海地域対話」に出席した。黒海周辺地域12カ国で構成する黒海経済協力機構(BSEC)との対話シンポジウムで、数多くの人達が出席していた。「激動する世界における日本と黒海地域」をテーマに活発な意見交換が行われたが、正直言って、私は、今まで12カ国の中で、4カ国しか訪れたことがなく、黒海と言ってもイスタンブールに面するボスフォラス海峡しか知らなかった。

しかし、そういう会議であったからこそ、出席する意味があったと思う。この地域は「エネルギー回廊」とも言

われるように、ロシアとカスピ海地域で生産される石油や天然ガスを西側へ搬出するルートである。また、政治的にも、キリスト教圏とイスラム教圏の境界に位置する。すでにEUに入っている国もあるし、トルコのような加盟候補国もある。ウクライナやグルジアのような旧ソ連加盟国もある。

だが、これら性格の違う国と個別に対話をするよりは、黒海地域全体と定期的に対話できるのであれば、討議する共通のテーマも出てくるであろうし、日本国内の関心も高まり、意義があるだろうと感じた次第である。

(2007年12月5日付投稿)

#### 最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- 2/12 「日米同盟の変革をめざす不断の努力を」(小笠原高雪)
- 2/1 「エネルギー供給国としてのロシアの信頼性」(須藤繁)
- 1/31 「現状維持選択した台湾有権者」(岡田充)
- 1/30 「第2回『日米アジア対話』に出席して考えたこと」(池尾愛子)
- 1/30 「中国主張の大陸棚論は根拠がないことを報道せよ」(湯下博之)

- 1/25 「JICAと危機管理の34年」(西川恵)
- 1/21 「国家公務員と議員の接触は禁止すべきか」(大河原良雄)
- 1/11 「技術供与に特許活用を忘れるな」(田島高志)
- 1/7 「油か、水か、日本の貢献」(岩國哲人)
- 12/25 「温暖化対策をめぐる国際政治上の駆け引き」(鈴木馨祐)

### フォーラム活動日誌 (12-2月)

- 12月17日第14回補佐人会
- 12月26日『メルマガ・グローバル・フォーラム』1月号配信
- 1月17日第18回世話人会・第4回拡大世話人会(2頁)
- 1月21日米アジア対話「東アジア共同体と米国」伊藤憲一執行世話人主催開幕夕食会
- 1月22日同上「日米アジア対話」第I部、第II部(ラルフ・コッサ・パシフィック・フォーラムCSIS理事長他98名)
- 1月28日『メルマガ・グローバル・フォーラム』2月号配信
- 1月30日ファイサル・トラッド・サウジアラビア大使来訪(伊藤憲一執行世話人)

#### ■新規メンバーの紹介

(12-2月分)

[経済人メンバー]

勝俣 恒久 東京電力取締役社長

[有識者メンバー]

内海 善雄 トヨタIT開発センター最高顧問

#### 事務局便り

「日米アジア対話」(1頁)当日は、日本人の学生だけでなくインドネシア、韓国、ニュージーランドといった東アジア共同体関係各国の留学生にも臨時インターンとしてお手伝いいただきました。各国の駐日大使をはじめ、多くの関係国参加者が出席する中、留学生の方々は事務局にとって頼もしい助っ人でした。

### 世話人会開催さる：新常任世話人に村上正泰氏を選任

恒例の世話人会が1月17日開催され、大河原良雄、豊田章一郎、茂木友三郎、小池百合子、谷垣禎一、鳩山由紀夫、島田晴雄、伊藤憲一、村上正泰の9世話人全員に加え、石川洋鹿島建設取締役、多々良幸尋日本郵船経営企画グループ長のお二方も経済人メン



右から島田、小池、豊田、茂木各世話人

バーとして出席した。

当日は、予算決算案の審議のほか、空席の常任世話人の選任が行われ、村上正泰世話人の昇任を決定した。村上常任世話人は、1997年に東京大学経済学部を卒業後、財務省に入り、2006年から日本国際フォーラム主任研究員。



グローバル・フォーラム会報  
2008年春季号  
(第9巻 第2号 通巻第34号)

発行日 2008年4月1日  
発行人 伊藤 憲一  
編集人 埜口 興平

発行所 グローバル・フォーラム  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301  
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp  
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.gfj.jp/>